

平成30年5月24日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部
病害虫防除室
直通：257-6972

平成30年度病害虫発生予報第2号について

今後発生が予想される、水稻、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項を掲載する。

1 予報期間 5月下旬～6月中旬

2 予報内容

(1)水 稲

葉いもちの発生は**やや多**と予想される。本田に放置された補植苗は伝染源となるので、直ちに除去する。箱施薬していない場合は6月中旬に予防粒剤を散布する。発生を認めた場合は初期の防除を徹底する。

斑点米カメムシ類の雑草地における発生は**やや多**と予想される。今後急激な増加も考えられることから、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。

(2)大 豆

茎疫病の発生は**やや多**と予想される。発芽直後の過湿条件は発生を助長するので、排水対策を徹底する。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

(3)果 樹

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

ブドウ灰色かび病の発生は**やや多**と予想される。耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。施設では換気に努め、過湿をさける。

(4)野 菜

ネギベと病の発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。

ハモグリバエ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナガの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。